

古文 識別 まる見え1枚シート

同じ形で意味が違う語の見分け方を、入試に出る順にまとめました。「上に何が付くか(接続)」を見るのが最大のコツです。

★★★ 入試超頻出

★★ よく出る

★ 余裕があれば

💡 覚え方

▶ 例文

① なり

▶ ② なむ

▶ ③ ぬ・ね

▶ ④ に

▶ ⑤ る・れ

▶ ⑥ し

▶ ⑦ その他(らむ・て・が・を・ばや)

識別は「すぐ上の語が何形か」を確認するのが鉄則。とくに終止形か連体形か、未然形か連用形かを見分けるのがカギ。

読む順：左の列を上から順に ▶ 終わったら 右の列へ (見出しの番号が順番です)

1 なり — 断定か伝聞推定か

種類	接続(すぐ上)	意味・訳し方	頻出
断定 なり	体言・連体形	～だ・～である／～にある	★★★
伝聞推定 なり	終止形(ラ変は連体形)	～だそうだ(伝聞)・～のようだ(推定)	★★★
動詞 なる	—(ラ行四段「成る」)	～になる・～が生じる	★★
形容動詞 語尾	「あはれ」「静か」等の語幹の下	形容動詞ナリ活用の活用語尾	★★

💡 音・声・気配が根拠なら伝聞推定! 「鐘の音聞こゆ」のように耳で得た情報につながる「なり」は伝聞推定。意味で迷ったら接続で決める＝終止形接続なら伝聞推定、体言・連体形接続なら断定。

▶ 例文: 男もすなる日記といふもの(す=サ変終止形+なる) → 男もすという日記というもの(伝聞)

▶ 例文: これは竜の首の玉なり(体言+なり) → これは竜の首の玉だ(断定)

2 なむ(なん) — 4つの「なむ」

種類	接続・形	意味・訳し方	頻出
係助詞 なむ	種々の語に付く(取り除いても文が成立)	強意(訳さず)。文末は連体形で結ぶ	★★★
完了な+推量 む	連用形+な(完了ぬの未然形)+む	きつと～だろう・～てしまうだろう	★★★
ナ変+む	「死ぬ・往(去)ぬ」の未然形語尾+む	死ぬだろう・行くだろう(推量・意志)	★★
終助詞 なむ	未然形+なむ	他への願望「～してほしい」	★★★

💡 すぐ上の活用形で一発判定! ①未然形+なむ=願望(～してほしい) / ②連用形+な+む=強意完了+推量(きつと～だろう) / ③種々の語に付き取り除いても文が成立=係助詞(強意)。係助詞なむは文末が連体形で結ばれる(係り結び)。

▶ 例文: 花咲かなむ(咲か=未然形) → 花が咲いてほしい(願望)

▶ 例文: 今は立ちなむ(立ち=連用形+な+む) → もうきつと立ち去るだろう(強意完了+推量)

▶ 例文: いとつくしうなむるたる(係助詞) → たいそうかわいらしく座っている(強意・結びは連体形「たる」)

3 ぬ・ね — 完了か打消か

「ぬ」の見分け

- 完了ぬ・終止形 連用形+ぬ=～た・～てしまった
- 打消ず・連体形 未然形+ぬ=～ない(下に体言が続く)

「ね」の見分け

- 完了ぬ・命令形 連用形+ね=～てしまえ
- 打消ず・已然形 未然形+ね=～ない(ば・ども等が続く)

💡 上が連用形なら完了、未然形なら打消! 動詞「咲く」で確認すると、咲きぬ(連用→完了) / 咲かぬ(未然→打消)。同じ動詞を当てはめて上の音が「い段(連用)」か「あ段(未然)」かを見る。

▶ 例文: 日も暮れぬ(暮れ=連用形) → 日も暮れてしまった(完了・終止)

▶ 例文: 知らぬ人(知ら=未然形) → 知らない人(打消・連体)

4 に — 最難関! 6つの「に」

種類	接続・決め手	意味・訳し方	頻出
格助詞 に	体言(連体形=準体言)に付く	～に(場所・時・対象・帰着点)	★★★
接続助詞 に	連体形+に(文と文をつなぐ)	～ところ・～ので・～のに	★★★
断定なり 連用	体言・連体形+に(下に「あり・侍り」等)	～である・～であって	★★★
完了ぬ 連用	連用形+に(下に「き・けり・けむ・けり」)	～てしまった・～た(にき/にけり)	★★★
形容動詞 連用語尾	「静かに」「あはれに」等の語尾	形容動詞ナリ活用の連用形活用語尾	★★
副詞 の一部	「さらに」「げに」「つひに」等	副詞の一部(切り離せない)	★

💡 「にき・にけり・にけむ・にたり」は完了「ぬ」の連用形! 「に+き/けり…」のセットを見たら即完了。「に+あり(→なり・なる)」なら断定の連用。下に何が続くかで決めるのが最速。

▶ 例文: 京にはべり(体言+に) → 京にいます(格助詞)

▶ 例文: 思ひけるに、…(連体形+に) → 思っていたところ、…(接続助詞)

▶ 例文: 鬼にやあらむ(鬼=体言+に+や+あらむ) → 「鬼であろうか」。この「に」は断定「なり」の連用形。

5 る・れ — 助動詞か活用語尾か

種類	接続・決め手	意味・訳し方	頻出
る・らる	未然形+る/れ(a段+る)	自発「自然と～れる」・受身「～られる」・可能「～できる」・尊敬「～なさる」	★★★
完了存続 り	四段已然形・サ変未然形+る/れ	～た・～ている(完了・存続)	★★★
動詞 活用語尾	ラ変・ラ行四段・下二段などの一部	その動詞の活用語尾(識別不要)	★★

💡 上がe段なら完了「り」、a段なら助動詞「る」! 「咲く」で確認=咲ける(已然e段→完了存続) / 咲かる(未然a段→自発受身可能尊敬)。サ変は「せ+り」の形(し給へり=四段已然の例)。自発・尊敬は「心情語+る」「貴人+る」が目印。

▶ 例文: 故郷思ひ出でらる(思ひ出で=心情) → 自然と故郷が思い出される(自発)

▶ 例文: 花咲けり(咲け=四段已然e段) → 花が咲いている(存続)

6 し — 過去「き」か他か

種類	接続・決め手	意味・訳し方	頻出
過去き 連体形	連用形+し(下に体言)	～た(過去・連体)	★★★
副助詞 し	体言・助詞などに付く(取り除ける)	強意(訳さない)「しも」の形も多い	★★
形容詞 語尾	「うつくし」「をかし」等の終止形	形容詞ク・シク活用の活用語尾	★★
サ変す 連用形	「し給ふ」「したり」の形	「する」の連用形	★

💡 取り除いても文が通れば副助詞、通らなければ過去! 「今しも」のように消しても意味が変わらない=副助詞。連用形+し+体言は過去「き」の連体形。形容詞は「～し。」で文が終わる。

▶ 例文: 見し人(見=連用形+し+人) → (以前に)見た人(過去・連体)

▶ 例文: 今しも来む(取り除ける) → ちょうど今来るだろう(副助詞・強意)

7 余裕があれば押さえる識別

語	見分けの決め手	意味・訳し方	頻出
▼ らむ(らん)			
現在推量らむ	終止形(ラ変は連体形)+らむ	今頃～ているだろう／～のだろう(原因推量)	★★
完了り+推量む	四段已然形(e段)+ら(完了りの未然形)+む	～ているだろう(存続+推量)	★
▼ て			
接続助詞て	連用形+て	～て・～ので(単純接続)	★★
完了つ未然・連用	連用形+て(下にむ・き・けり等)	てむ=きつと～だろう、てき・てけり=～てしまった	★
▼ が・を			
格助詞が・を	体言・連体形に付く	が=主格/連体(～の)、を=対象(～を)	★★
接続助詞が・を	連体形+が/を(文をつなぐ)	が=～だが、を=～ので・～のに	★★
▼ ばや			
終助詞ばや	未然形+ばや	～したい(自己の願望)	★★
接続助詞ば+係助詞や	已然形+ば+や	～ので…か/～すると…か(疑問)	★

💡 「ばや」は未然形+ばやで願望! 已然形+ば+や(疑問)と区別。「が・を」は連体形に付いて文をつなぐなら接続助詞、体言に付けば格助詞。

▶ 例文: いかで見ばや(見=未然形) → なんとかして見たい(願望の終助詞)

▶ 例文: 思ふを、え言はず(思ふ=連体形+を) → 思うのに、言えない(接続助詞「を」=逆接)